

平成 25 年度 大竹市地域公共交通活性化協議会 事業経過報告

1 概 要

本協議会は、市域における住民生活に必要なバス等の旅客輸送の確保ならびにその他旅客の利便の増進を図り、地域の実情に即した輸送サービスの実現を目的とし、市民・事業者・関連行政機関等が協議・連携する場として、平成 20 年 3 月 25 日に発足した。

平成 20 年度には、基礎調査、アンケート調査、住民ワークショップ等を実施し、平成 21 年 3 月、これからの公共交通施策の根幹ともいふべき「大竹市地域公共交通総合連携計画」の策定に至った。

平成 25 年度においては「総合連携計画」に則り、以下の事業を実施した。

2 平成 25 年度の事業内容

(1) 活性化協議会の開催

	開催日	出席者	傍聴者	主な審議内容
第 1 回	5 月 27 日	14 人	2 人	・平成 24 年度事業経過報告・収支会計決算報告 ・平成 25 年度事業計画、収支会計予算 ・協議会規約、事務局規定の一部改正について
第 2 回	7 月 22 日	14 人	2 人	・栄ぐるりんバスの運行計画の変更について ・湯舟のりあいタクシーの運行計画の変更について
第 3 回	2 月 12 日	16 人	1 人	・第 2 期大竹市地域公共交通総合連携計画（素案）について ・一般乗合旅客自動車運送事業の事業計画（案）について（大竹・栗谷線バスの車両の変更） ・消費税及び地方消費税改正に伴う坂上線の運賃について
第 4 回	3 月 20 日	15 人	2 人	・第 2 期大竹市地域公共交通総合連携計画（案）について

【事業費】	報償費	210,000 円	（@5,000 円×42 人（第 1 回～4 回））
	食糧費	7,700 円	

(2) 幹線交通検討分科会の開催

こいこいバスのルート変更及び4周年記念イベントについて協議するため、分科会を1回開催した。

こいこいバスのルート変更（小方ヶ丘経由，玖波駅西口発着）については、「当初のルート設定時の理念を遵守すべき」「費用対効果に疑問がある」などの意見が出され、「ルートは変更しない」こととなった。

こいこいバスの運行開始4周年記念イベントについては、「今回は実施せず，平成26年度の5周年で記念イベントを実施する」こととなった。

【事業費】 食糧費 1,500円

(3) 広報紙による啓発記事掲載

市発行の「広報おおたけ」に公共交通や協議会の取り組みに関する記事を毎月掲載し，市民への情報提供及び啓発を実施した。

【事業費】 印刷製本費 324,000円 (@1.62円×16ページ×12,500部)
--

(4) こいこいバスの運行

平成21年10月から実証運行を開始し，平成24年4月に本格運行へ移行した。

平成25年度も順調に利用者が増えており，最も多かった平成24年度の利用者数を更新した。利用者数の増加に伴い，収益率も上昇し，「総合連携計画」の目標（平成25年度の収益率50%）を達成した。

また，「バスエコファミリーキャンペーン」を11月に実施した。

【受託者】	(有)大竹交通, (有)大竹タクシー
【運行期間】	平成25年4月1日 ~ 平成26年3月31日
【運行区間】	JR大竹駅 ~ JR玖波駅 (全長: 8.0km 停留所: 19か所)
【運行便数】	平日: 34便 土日祝日: 32便
【運行日数】	平日: 248日 土日祝日: 117日 計: 365日
【利用者数】	89,589人 (平均値: 245人/日 7.36人/便)
【運行経費】	26,060,000円 ※2台運行
【事業収入】	16,566,258円 (収益率: 63.6%)
	{ 運賃収入: 16,313,418円
	{ 広告収入(ベンチ): 231,840円
	{ 広告収入(車内): 21,000円
【補助金額】	9,493,742円
【関連事業費】	バスエコファミリー: 7,100円 ※小学生無料分補てん。

(5) **三ツ石地区乗合タクシーの運行**

平成21年10月から実証運行を開始し、平成24年4月に本格運行へ移行した。
最も利用者数が多かった平成23年度に比べると利用者数は減少しているものの、平成24年度と同等の利用者数となっている。

年間の収益率は運行開始当初から40%を越えており、1台あたりの利用者数も1.71人と安定した利用状況である。

【受託者】	有 大竹交通
【運行期間】	平成25年4月1日 ~ 平成26年3月31日
【運行区間】	三ツ石地区 ~ ゆめタウン大竹または市役所
【運行便数】	毎週 月・火・金 11便/日
【利用者数】	1,525人(892台) 平均値：1.71人/台
【運行経費】	802,800円 (@900円×892台)
【運賃収入】	346,586円 (収益率：43.2%)
【補助金額】	456,214円

(6) **ひまわりタクシー（玖波7・8丁目）の実証運行**

平成23年7月から玖波7丁目の実証運行を開始し、平成24年1月には運行区域に玖波8丁目を編入した。

玖波8丁目を運行区域に編入してからは利用者が増加傾向で、平成25年度は平成24年度と比べて、利用者数、収益率ともに増加した。

平成24年9月から早朝及び夕方を試験増便しており、その利用状況を踏まえ、玖波7・8丁目合同の運行協議会でダイヤ改正や利用促進策について検討している。

【受託者】	有 大竹交通
【運行期間】	平成25年4月1日 ~ 平成26年3月31日
【運行区間】	玖波7・8丁目 ~ JR玖波駅または広島西医療センター
【運行便数】	毎週 月・火・金 11便/日
【利用者数】	1,087人(711台) 平均値：1.53人/便
【運行経費】	620,700円 (@800円×192台+@900円×519台)
【運賃収入】	231,033円 (収益率：37.2%)
【補助金額】	389,667円

(7) 湯舟のりあいタクシーの実証運行

平成24年1月から実証運行を開始した。

運行開始当初から利用状況が芳しくなかったため、平成24年度に利用状況や改善点を把握するためのアンケートを実施し、その結果を踏まえ、運行委員会で運行曜日、ダイヤの変更について協議した。平成25年9月から運行内容を変更して運行しており、9月以降、徐々に利用者が増加している。

平成25年度の収益率は、平成24年度と比べてわずかの改善にとどまっているが、利用者数は2倍に増加している。

【受託者】	(有)大竹交通
【運行期間】	平成25年4月1日 ~ 平成26年3月31日
【運行区間】	湯舟地区 ~ JR玖波駅または広島西医療センター
【運行便数】	毎週 月・火・金 10便/日 (4月1日~9月1日) 毎週 月・水・金 10便/日 (9月2日~3月31日)
【利用者数】	211人 (175台) 平均値: 1.21人/便
【運行経費】	105,000円 (@600円×175台)
【運賃収入】	35,163円 (収益率: 33.5%)
【補助金額】	69,837円

(8) 栄ぐるりんバスの実証運行

平成24年2月から実証運行を開始した。支線交通としては、唯一の定時定路線型バスを運行している。

運行開始当初から利用状況が芳しくなかったため、平成24年度に地区住民等に対するアンケートや聞き取り調査を実施し、その結果を踏まえ、運行委員会で運行日数や運行便数、運行ルート、運行ダイヤの変更について協議した。平成25年9月から運行内容を変更して運行している。

運行内容の変更後、1便あたりの利用者数は若干増えたが、運行経費も増加したため、収益率は低迷したままである。運行委員会では、さらなる見直しを検討している。

なお、平成26年2月1日には、運行開始2周年を記念して無料運行を実施し、187人（大人152人、小学生35人）が利用した。

【受託者】	有 大竹タクシー
【運行期間】	平成25年4月1日 ~ 平成26年3月31日
■4月1日~8月31日	
【運行区間】	JR大竹駅 ~ サントピア大竹 ~ 南栄2丁目 ~ 青木住宅 全長：8.6km, 停留所：19か所
【運行便数】	毎週 月・水・金 11便/日 ※運行日数66日
【利用者数】	859人（平均値：13.0人/日 1.18人/便）
【運行経費】	2,138,106円
【運賃収入】	153,700円（収益率：7.2%）
■9月1日~3月31日	
【運行区間】	JR大竹駅 ~ 栄地区巡回 ~ JR大竹駅 全長：8.2km, 停留所：25か所（1行程の重複含む）
【運行便数】	毎週 月・火・水・木・金・土 14便/日 ※運行日数181日
【利用者数】	3,660人（平均値：20.2人/日 1.44人/便）
【運行経費】	6,222,780円
【運賃収入】	634,100円（収益率：10.2%）
■平成25年度（年間）	
【利用者数】	4,519人（平均値：18.3人/日 1.39人/便）
【運行経費】	8,360,886円
【事業収入】	811,425円（収益率：9.7%）
	{ 運賃収入：787,800円
	{ 広告収入車外：23,625円
【補助金額】	7,549,461円
【関連事業費】	停留所標識作製 1,091,108円
	車両表示板作成 18,900円

(9) その他、新たな支線交通の検討と導入

平成25年度中には、新たな支線交通の導入についての要望・相談等はなかった。

(10-1) 大竹・栗谷線の抜本的な見直し

今後も持続できる交通サービスのあり方について検討するため、バスを利用されている方を中心に、栗谷線バスの問題点などを伺う座談会を開催した。

【開催日】 平成26年1月22日

【場所】 大竹市農林振興センター

【参加者数】 14人（大栗林2人、小栗林7人、後原4人、谷尻1人）

(10-2) 坂上線の運行ルートの見直し

坂上線の前飯谷を経由する運行ルートは道路幅員が狭く、法面の樹木の枝が運行の支障となるため、定期的に維持管理が必要である。また、梅雨や台風時期には法面の土砂の流出や倒木、落石が発生するなど、運行できない便があるため、他に運行できるルートがないか検討した。

また、薬局の整備に伴い、大和橋バス停が支障となったため、バス停を移設した。

【事業費】 結節点整備費 215,250円

(11) モビリティ・マネジメントの実施

公共交通（バス）を教材として、児童が地域や環境について考える機会を設けるため、小学校低学年を対象とした出前講座を企画し、6月の校長会で呼びかけたが、希望がなかった。

また、市広報にモビリティ・マネジメントや持続可能な公共交通にするための考え方等の記事を掲載した。

(12) バスエコファミリーキャンペーンについて

平日に比べて土日の利用者が少ないことから、土日祝日の利用を促進するとともに、モビリティ・マネジメントの一環として、こいこいバスについては、11月の土日祝日に限り、大人に同伴する小学生を無料とするキャンペーンを実施した。（平成23年度に実施し、平成24年度からは恒例行事とした。）

【事業費】 小学生分補てん 7,100円（71人分） 《再掲》

平成23年度：29人、平成24年度：57人、平成25年度：71人

(13) 広告の募集について

市広報5月号でこいこいバスのベンチ広告，車内広告の募集記事を掲載した。

また，9月から栄ぐるりんバスの車外広告等を募集することとしたため，市広報12月号で栄ぐるりんバスとこいこいバスの広告の募集記事を掲載した。（栄ぐるりんバスの広告募集記事は，大竹市の公式Facebookページにも掲載した。）

【平成25年度広告料収入】 《再掲》

こいこいバスベンチ広告：2件，231,840円

こいこいバス車内広告：3件，21,000円

栄ぐるりんバス車外広告：1件，23,625円（3か所分）

(14) 平成25年度大竹市地域公共交通総合連携計画事業推進業務

総合連携計画の計画事業をより円滑かつ効果的に実施するため，また，総合連携計画を改定するため，専門的知識・ノウハウを有するコンサルタントに業務を委託した。

【受託者】 (株)地域未来研究所中国四国事務所

【業務名】 平成25年度大竹市地域公共交通総合連携計画事業推進業務
(第5期)・改定業務

【履行期間】 平成25年6月24日～平成26年3月24日

【主な業務内容】

◇ こいこいバスの運行の検証

- ・本格運行の検証
- ・4周年記念ポケット時刻表，ポケットティッシュの作製
- ・利用者数の推移，課題・改善策の整理

◇ 三ツ石地区乗合タクシーの運行の検証

- ・利用者数の推移，課題・改善策の整理

◇ 栄ぐるりんバスの再編における運行準備，運行の検証，利用促進策の検討

- ・ポスター，チラシ，バス停標識，車両マグネットデザイン等の作成
- ・ニーズ把握調査
- ・利用者数の推移，課題・改善策の整理

◇ ひまわりタクシー，湯舟のりあいタクシーの運行の検証，利用促進策の検討

- ・利用者数の推移，課題・改善策の整理

◇ 大竹・栗谷線再編の検討

- ・ニーズ把握調査
- ・大竹・栗谷線バスについて考える座談会の実施支援

◇ モビリティ・マネジメントの実施支援

- ・市内小中学校を対象にした出前講座のチラシ作成

◇ 総合連携計画の改定支援

- ・第2期大竹市地域公共交通総合連携計画の策定

【事業費】 3,000,000円

(15) 大竹市地域公共交通総合連携計画の改定

平成21年3月に策定した「総合連携計画」の計画期間が平成25年度までとなっていたため、引き続き、持続可能な公共交通体系を構築するため、「第2期大竹市地域公共交通総合連携計画」を平成26年3月に策定した。

策定にあたっては、活性化協議会での2回にわたる審議のほか、パブリックコメントを実施した。

パブリックコメント実施結果

【概要】 第2期総合連携計画（案）を市ホームページに掲載したほか、市の情報公開コーナーや4つの支所に計画（案）を備え付け、意見を公募した。

【意見公募期間】 平成26年2月17日（月）～2月28日（金）

【意見提出者数】 3人（6件）

(16) コミュニティバス時刻表掲載折込チラシについて

(株)フロンティアエージェンシーから広告収入でコミュニティバスの時刻表、路線図を掲載したチラシを作成したいとの申し出があり、了承した。「こいこいバス」「栄ぐるりんバス」「大竹・栗谷線」「坂上線」の時刻表及び一部の路線図を掲載し、平成26年2月8日に中国新聞の折込チラシとして配布した。

3 大竹市公共交通活性化基金の活用

平成23年度に米軍再編に伴う防衛省の再編交付金を活用し、公共交通活性化基金を造成した。平成24年度からこいこいバスと支線交通の計5路線を対象とし、運営経費の財源として活用している。

【基金名】	大竹市公共交通活性化基金
【造成日】	平成24年3月29日
【基金額】	105,000,000円
【再編交付金額】	102,585,000円
【事業年度】	平成24年度～平成28年度
【繰出金】	平成24年度：14,236,447円 平成25年度：16,037,693円（予定）